

# 会報

# 道南

No. 44  
平成18年  
夏季号

## ふるさととの距離

北海道道南会会長 田 沼 修 二

この度の道南会報には、六月に行つた「ふるさと訪問旅行」について、詳しい報告が掲載されていますが、よい季節と天候に恵まれて、楽しい旅を満喫できました。

今回のふるさと訪問旅行では、市町村合併で拡大した新しい函館市のほぼ全域を訪ねましたが、その印象は鮮明でした。昔は、いわゆる下海岸（しもかいがん）と呼ばれて、子どもの足では志海苔台くらゐまでしか行かせて貰えませんでした。それが今は立派に舗装された道路で結ばれ、恵山に観光施設ができ、戸井町や榎法華村、南茅部町の漁村も護岸が築かれ、家々も立派に改装されて、昔の面影はありませんでした。

「ふるさと」と言う言葉の持つ遠く離れた懐かしい場所というイメージは一掃されました。市域が拡大した函館市は、異国情緒に満ち溢れる昔ながらの函館山麓

に加えて、はるかに太平洋を見晴らす魅力溢れる新しい「ふるさと」になっている



市役所を表敬訪問  
工藤助役と歓談

ました。

いわゆる「ふるさと会」のイメージは、昔住んだけれども、今自分たちの住んでいる所とは別世界になってしまった懐かしい場所への回帰願望であり、一種望郷の思いが共有されていました。

しかし考えてみると、硬い座り心地の悪い椅子や狭い寝台車に揺られながらの鉄道の旅と良い場所を確保するために青森駅のホームを走って乗り継いだ連絡船を利用しての二日ばかりで帰省した時代は昔のことになってしまいました。

今回のバスツアーで最後に訪れたJR大野駅は、やがて新幹線が北海道に伸びる十年後には新しい駅舎の予定地とされており、新幹線開通の暁には東京から四時間足らずで結ばれることになる予定のことです。

空の便が便利になり、羽田・函館間は飛行時間が一時間二十分で結ばれていますが、新幹線が開通すれば、空の便より利用しやすくなるかもしれません。ことに東京の東北部や千葉、埼玉などに住む人々にとって羽田へ行くまでの時間や搭乗までの手続きの時間を考えれば、新幹線の利用のメリットは大きいはずで、問題は、料金がどのように設定されるかでありましょう。

「ふるさととは、遠きに在りて 想うもの」という詩句は、既に過去のものになりつつあり、「ふるさと会」もまた郷愁で

結ばれるだけでなく、郷里の観光、産業、交通などとの新しい結びつきを、改めて考える必要を痛感いたしました。



雪の五稜郭

### 道南会夏季懇親会

日時 平成18年9月2日(土)

午後1時～3時

会場 「ホテル聚楽」

2階宴会場

会費 6,000円

(女性5,000円)

# 最近の函館の話題から

函館市は「ひかり輝くまち」の実現に向けて、様々な取り組みを行っており、最近のまちの話題についてご紹介します。

## ○函館・ソウル間定期航空路就航

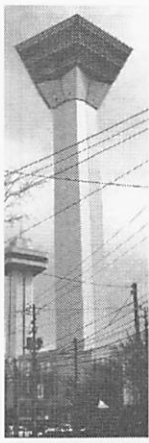
函館空港としては二番目の国際路線として、函館・ソウル間定期航空路が六月一日に就航しました。毎週日・火・木の三便運行で、韓国からはゴルフ客を中心に年間三〜四万人の利用が見込まれています。

また、台湾からのチャーター便による観光客も昨年同期の四割増を記録しており、今後ますます国際観光都市としての発展が期待されます。

## ○新五稜郭タワーがオープン

特別史跡五稜郭跡の全景が見渡せる新五稜郭タワーが四月一日、オープンしました。全高が旧タワーより四十七m高い一〇七mとなり、展望台からは五稜郭の星形が完全にはっきりと望め、函館の街並みを三六〇度楽しむことができます。

オープン以来、観光客に加え市民も多数訪れており、目標である年間一〇〇万人の搭乗数を突破しそうな勢いです。



## ○箱館奉行所の復元

懸案でありました箱館奉行所の復元整備は国や道の補助を受け八月に着工、二〇一〇年七月にオープンの予定で、総工費は三十三億円を見込んでいます。

貴重な歴史的、文化的遺産を活用し、市民や観光客が函館の歴史を学べる施設となる予定で、新五稜郭タワーに次いで、函館・五稜郭に新名所がまた一つ生まれます。



## ○JR山手線に車体広告

首都圏から観光客の誘致を計るため、

六月四日から七月一日まで四週間、都内で運行するJR山手線の電車二編成分の車体に、函館山からの夜景や五稜郭公園など主要な観光名所の写真を利用した広告を出しました。

縦一七六・五センチメートル、横六十八センチメートルのデザイン広告を一両につき八枚、それぞれの乗降口の横側に張り出し、首都圏の大動脈で函館観光をPRしました。

## ○旧函館西警察署の解体始まる

函館市が「函館臨海研究所」（仮称）として再整備を進める、旧函館西警察署庁舎（大町十三）の解体工事が始まりました。

同庁舎は一九二六（大正十五）年の建設で、函館西警察署が海岸町に移転した八十四年まで使用され、八十九年には市の景観形成指定建築物等に指定されています。

新設する臨海研究所は、市の「国際水産・海洋都市構想」の拠点施設として、北大大学院水産科学研究院や民間研究機関の研究室、同構想の推進協議会事務室などに利用されます。

新しい建物は、鉄筋コンクリート二階建てで、延べ床面積約一一三〇平方メートル、現在の建物を解体し、資材の一部を流用します。

各資料を元に、建設当時の外観を忠実に再現する方針で、七年四月にオープンの予定です。

## 函館市東京事務所 自己紹介

所長 会田雅樹

昭和二十六年 八雲町生れ。

中部高校進学を機に親元を離れ谷地頭町に下宿。バンカラを気取り長髪・高下駄で通学し谷地頭の急坂で何度もコケる。転勤の無い職場を選んだつもりが、東京事務所勤務を命ぜられ本年四月赴任。

ふるさと函館を思う皆さんの熱い気持ちを市政に反映させるのが使命と肝に銘じています。時間に追われる日々ですが、在京中に横浜球場（ベイスターズファンのため）と中山競馬場（お馬さんファンのため）へ行くのがさやかな望み。

副所長 西谷康紫

所長と同じく、今年四月に東京事務所副所長として赴任いたしました。

生まれ育ちとも函館で、住まいは旅籠町（現在の弥生町）、会所町（同元町）、時任町、陣川町（旧亀田市）と、函館市の発展とともにその影響を受け、東部方面に移り住んで行った典型的な函館人の一人ではないかと思っております。

道南会の皆様には早く函館の情報をお伝えするとともに、皆様の函館への熱い思いをまち作りに反映させたいと考えておりますので、よろしくご指導・ご鞭撻のほどお願いいたします。

# 四十五周年記念 『ふるさと訪問旅行』

川守田孝平

北海道道南会は今年創立四十五周年を迎え、記念行事の一環として『ふるさと訪問旅行』を実施した。

函館市は一昨年、近隣の戸井町、恵山町、楸法華村、南茅部町の四町村を合併して三十万人を超す市となったが、その大きく変貌した故郷の姿を見る事、そして記念の植樹と函館市関係の方々との懇親会の開催がこの旅行の主な目的である。

六月四日、いよいよ出発の朝、われわれを乗せた全日空機は羽田の上空から一路函館に向かって飛行を続けた。故郷函館の空は良く晴れていて、飛行機は函館山の上から街を見下ろしながらゆっくりと降下して函館空港に着陸した。

夜はロープウェイで函館山に上がり、だんだんと暮れて行く夜景を眺め、宝石を散りばめた様にキラキラと輝く、その美しさと素晴らしさに感動の連続だった。

翌日は観光バスで下海岸から鹿部、大沼をぐるりと廻ることにした。先ずバスは、鮮やかな緑に囲まれた、白石オートキャンプ場に立ち寄って記念植樹を行った。エゾヤマザクラの苗木の根元に、この樹が大きく成長する事を願って全員が土を盛り、無事に植樹を終えた。

次にバスは戸井町から恵山町に入って、恵山の麓から中腹を真っ赤に彩った美しいつじを眺め、暫し時間を忘れて見入っ



ていた。恵山をあとにして次の町、南茅部町を通り大沼公園に向かう途中、鹿部の間歌泉公園に寄った。この間歌泉は大正十三年に温泉を掘っている時に偶然見つかったもので、日本でも大変珍しいのだとの事。今は立派な施設が出来て、多勢の人達が足湯を楽しんでいた。

大沼公園に着くと、それまで雲に隠れて見えなかった駒ヶ岳が、美しい姿を現し私達を出迎えてくれ、その姿を背景に記念写真を撮った。最後に北海道新幹線の駅予定地である大野駅前寄った。この大野町は今年二月、隣接する上磯町と合併し、北斗市へと変わっていた。

この夜、赤レンガ倉庫群の中の、カフェ&ダイニングかねもりで懇親会を開催した。函館市からは工藤助役を始め、坪谷観光室長など九名、函館国際観光コンベンション協会から沼崎会長がご出席下さり、総勢五十三名が和気藹々と歓談、時の経つのを忘れてしまふほどであった。

最終日は道立函館美術館で開催中の、郷土が生んだ画家、田辺三重松画伯の風景画展を鑑賞。この展覧会を紹介してくれた池田幹雄画伯が寄贈された『月の砂漠』も展示されていて皆さんの注目を集めていた。この後、四月に完成したばかりの五稜郭タワーへと足を運び、以前の二倍近い高さである九〇mからの展望を楽しんだ。

その後、田沼会長他役員六名は工藤助



役を表敬するため函館市役所を訪れ、助役と歓談した。四年振りの市役所訪問であるが、また次の訪問を約束して市庁舎を後にした。

久し振りに訪れた函館は、駅や空港などが新しい姿になり、町村合併で町の様子が変わる一方で、変わらない故郷の山や川の想いに浸ることが出来た三日間であったが、故郷の人々と函館弁で語り合った楽しい時間が、何時までも心の中に残っていて欲しいと願うものである。

## 二上九段出版記念会

元日本将棋連盟会長の二上達也氏（道南会顧問）が、この程新著「棋を楽しむて老いるを知らず」出版された。これをお祝いする出版記念会が、道南会や函館中部・西・東・遺愛・白百合・大谷高校などの東京地区同窓会の有志、友人などが発起人となって六月二十三日（金）、午後七時より、東京・文京区関口の椿山荘で関係者九十人が出席して行われた。

会では、最初に、田沼修二道南会会長が「棋士は、将棋板の目の数・八十一と同じ年齢になることを「盤寿」と祝うと聞いている。昔ならいざ知らず、盤寿はまだ十分に若い。二上さんはその年齢には十年ほどある。今回の出版は、一区切りともいえるが、今後も執筆活動が続けられるとともに後進の指導に一層のご活躍を期待したい」と挨拶した。

この日は、日頃からお付き合いの多い、言わば仲間内のお祝い会といった雰囲気です。堅苦しい挨拶は省略し、二上九段のお礼の挨拶でも、お得意のカラオケで一曲歌を披露するなど終始和やかに会が進められ、午後九時前終了した。

この日の椿山荘では、名物のホテル祭りが行われており、会の終了後には、三五々、中庭の日本庭園でホテルの舞いを楽しんでいった。

## ふるさと会・同窓会

### ◎関西函館をおもう会

「関西函館をおもう会」の創立二十五周年記念総会が、二月二十五日（土）、大阪・中央区の葉業会館で、関西在住の会員百名が出席して盛大に行われた。

富士昭一会長の挨拶のあと、石井函館市収入役など来賓の祝辞が続き祝宴に移った。



食卓には、「いかソーメン」などのふるさとの味が並び、舞台では日本舞踊やミニライブなど会員によるアトラクションと、協賛提供品の福引きが行われた。最後に、港踊りで会場を一巡したあと、参会者全員で「ふるさと」を合唱して年一回の望郷の思いを満喫して終わった。

## 弦巻鋼男さんを悼む

道南会会長 田沼修二

道南会の多くの会員に親しまれ、顧問として会の発展に尽くされた弦巻鋼男さんが三月二十七日、逝去されました。

入院、逝去、葬礼のいずれも急なことで、亡くなって初めて耳にし、会の代表として弔意を表しましたところ、長男の弦巻一磨さんから次のような鄭重なご挨拶が届きましたのでご披露します。

父弦巻鋼男は三月二十七日に肝臓がンのため、享年八十一歳にて急逝いたしました。本来は早速ご連絡申し上げるところ、ご一報が遅れ、深くお詫び申し上げます。

また、先般格別のご厚情並びにご丁寧なご書状まで賜り、心から厚く御礼申し上げます。生前の父に過分なご評価をいただき、ただ恐縮するばかりでございます。なお、「長倉新八秘話」（十八年新年号会報掲載）に關しましては、父も執筆に苦心した様子で何べんも書き直したと申しておりました。田沼様からお褒めをいただき、草葉の陰でさぞ喜んでいふことと存じます。

父は、この数年、函館、函館師範、松前等について語ることが多くなり、望郷の念を強くしている様子でした。従って、ふるさと会の皆様と楽しく飲み語り合うことを何よりの楽しみとしていたことは間違いないと存じます。田沼様、川守田様始め生前父が大変お世話になった道南会の皆様方に深く感謝申し上げます。今後の北海道道南会の更なるご発展と皆様のご健康をお祈りいたします。

松前町出身の弦巻さんは、昭和二十四年六月松前城が焼失したのを機に、郷里の復興のため「東京松前会」を作られました。そして、弦巻さんが推進役を努められて、同会は創立以来五十二年の歴史を誇り、会員の中から日本画の山口逢春書家の金子鷗亭などの文化勲章受章者を輩出したことを誇りとしていました。弦巻さんは、函館師範卒業後は函館や道内各地で教鞭をとられ、戦後は首都圏で教壇に立つて新しい教育活動を主導されました。

晩年、母校・函館師範を札幌の教育大に吸収する提案が起きたときには、弦巻さんは猛然と反対の旗を掲げ、この案を葬ることに成功されました。その一方で、松前藩の歴史や文化の研究に生涯をかけ、数多くの論文のほか「長倉新八秘話」などの読み物を執筆されました。

今は、弦巻先輩の温顔を思い出しつつ、ご冥福を祈るばかりです。

## ◎東京ふるさと七飯会

「東京ふるさと七飯会」は、平成元年二月、藤谷末松氏（道南会会員）を会長として、有志により、「ふるさとを愛し、会員の繁栄と会員相互の親睦を図ることを目的とする」として発足し、現在の会員数は五十七名。

平成十八年の「東京ふるさと七飯会」の第十七回定期総会・懇親会は、三月四日（土）正午、上野の「ふくしま会館」で開催された。五十七名の会員中、十九名が出席。来賓として、郷里から高橋伸



之収入役、北海道道南会から田沼修二会長が出席された。高橋収入役からは郷里の現況、特に新幹線工事の着工、行政改革に伴う収入役の廃止、町長選挙などの報告がなされた。田沼会長からは、道南会の活動状況、道南の各「ふるさと会」の活動についてのお話があった。

藤谷末松顧問の乾杯により懇談に移り、七飯の地酒「赤松街道」で喉を潤し、和気あいあいの語らいの中、会員の交流が続ぎ盛り上がりを見せた。

今回初めてお楽しみ抽選会を行い、会場が更に盛り上がる中、恒例の「故郷」を皆で合唱。歓談はまだまだ尽きないが、懇親会の中締めは畠山幹事の締めで、盛会の中、名残りを惜しみながら散会となった。（東京ふるさと七飯会長 葉袋泰記）

## ◎北海道福島会

第六回総会・懇親会を終えて

北海道福島会幹事長 花田善春  
福島町は、「スルメの生産加工」、千代の山と千代の富士（現・九重親方）の二大横綱を輩出した「横綱の里」、そして「青函トンネルの北海道側の基地の町」として知られ、また近年は昆布、ウニなどの養殖にも積極的に力を入れ、地場産業の振興に努めております。

「北海道福島会」は、四月二十二日（土）、第六回総会・懇親会を「アルカディア市谷（私学会館）」で行いました。

創立総会時には、百七十名を超える参加者がありました。回を重ねるごとに漸減して今回は百二十人となりました。創立時には、名称を北海道の福島を鮮明にしようとして「北海道福島会」と決めました。そのためか九州や大阪、札幌などの遠方からの参加者も多く、大変心強く感謝しております。

今回は、顧問の九重親方が弟子の大関・千代大海と関取・千代天山を伴って久しぶりに参加され、記念写真に入ったりして談笑され、大いに会を盛り上げていただきました。

余興は、会員とそのグループによる尺八、三味線合奏があり賑やかな一時となりました。恒例の抽選会では、福島町提供の特産品を中心に当選発表が行われると会場のおちこちから歓声があがり、盛況のうちに進行することができました。

なお、当会の大きな悩みの一つは、他のふるさと会にも共通したことと思われるのですが、参加者の高齢化と若い層の参加が極端に少ないことです。これに対しては、役員の一一致した結束と協力により克服しなければならぬ課題と受け止めております。

ところで、昨年、北海道庁のホームページで「北海道ふるさと会連合会」の存在を知りました。連合会の目的が、それぞれのふるさと会の交流親睦と郷里の発展に寄与することにあるという点では当会

の設立趣旨と合致しますので、早速、同連合会に八十一番目の団体として昨年八月に仲間入りさせていただきました。

その後、同連合会の会合に参加させていただき、他団体との交流・親睦を行うとともに主要行事の一つに「産直フェア」があることを知りました。しかし、北海道の産直フェアなのにスルメが販売されていないため、フェアに参加して、スルメを主体とする特産品を展示・即売することと、「横綱の里」をPRすることが、郷里福島町に寄与する第一歩ではないかと思っております。

今回の総会では、今年十月の「産直フェア」に参加することを皆さんに宣言すると同時に協力をお願いしました。

参加者の減少対策と郷里・福島町に対する何らかのお役立てなど、何にも増して大事なことは役員相互の意識の結束と熱意にかかっていると自覚しております。

## ◎大沼会（第四回）

六月二十四日（土）  
田町・天狗店 三十二名

## 【同窓会】

## ◎函館東高関東地区青雲同窓会

五月二十七日（土）  
霞ヶ関ビル・東海大学校友会館  
（新山春一会長）  
百三十名

◎大森小学校同窓会 (瀬田松吉昭会長)

五月二十八日(日)

数寄屋橋・ニュートーキョー

◎東川小学校同窓会 (渡邊宏司会長)

六月三日(土)

霞ヶ関・キャッスル

◎柏野小学校同窓会 (池上謹之助会長)

六月十日(土)

九段・グランドパレス

◎東京常盤会 (常盤小学校同窓会)

(南谷光一会長)

七月一日(土)

日本橋・アスター新館

◎北海道教育大学付属小・中学校同窓会

(延原昌樹会長)

七月八日(土)

四谷・ウイメンズ・プラザ

◎東京函商同窓会

(函館商業高校・葉袋泰会長)

◎白楊ヶ丘同窓会東京支部

(函館中部高等学校・金子公彦支部長)

九月三十日(土)

青山ダイヤモンドホールで開催予定

## 創立四十五周年記念・平成十八年度新年総会

今年は、創立四十五周年記念新年総会として、一月二十一日(土)午後一時より、東京・千代田区内幸町のプレスセンタービル十階ホールで、朝から郷里・函館の冬を思い出させるみぞれ交じりの冷たい雪が降る中、来賓、会員百十九人が参加して開催された。

総会は、福田裕子幹事の司会で進められた。最初に田沼修二会長が「昭和三十六年一月に発足した北海道連南会は、今年で創立四十五周年を迎えた。初代会

長は渡邊紳一郎氏、二代目が和田貞一氏、三代目が山下静一氏、四代目が室谷邦雄氏、そして私が五代目になる。その間、会員数は発足当初は五十数名だったが、最近では三百名から三百五十名で推移している。創立時の会員は、引退される方や亡くなられた方もあるが、その一方で新しい会員が増えて運営面や会の活性化に貢献されている。なお、戦後生まれ

のいわゆる「団塊の世代」が間もなく大量に退職される。これらの人々が同窓会やふるさと会の活動に関心を持つようになると思われ、これらの人々を新規会員として積極的に受け入れていきたいと考えている。四十五周年記念事業としては、本日の記念総会のほか、六月にふるさと訪問旅行を企画している。旅行では、新

しく合併した戸井町、恵山町、樞法華村、南茅部町を回ることと、北海道新幹線の新函館駅に決まった大野駅の見学、函館市関係者との懇親会などを企画している。また、四十五周年記念誌の発行を予定している」とあいさつした。

続いて、櫻井健治函館市商工観光部長、沼崎弥太郎函館国際コンベンション協会長、原田富雄北海道東京事務所副所長などの来賓紹介をした。

来賓を代表して櫻井部長が祝辞として函館の近況を含めて次のように述べた。

「①函館朝市の一部を改装して新たに「ぐんぶり横丁」ができた。理想的には、市民も手頃な料金で楽しめればと考えている。多少値段は高いが観光客に好評を得ている。②旧栈橋にある連絡船・摩周丸隣の施設・クイーンポートはこたでの一階に函館の財界人が中心となって、クラシックカーミュージアム函館を作り、欧米を中心とする歴代の名車の展示室ができ、七十台ほどが展示されている。③函館駅前前の老舗・棒二森屋デパートはダイエー傘下だったが、ダイエーが撤退したため、新たに福島市のデパート・中合と一緒に元々の「棒二森屋」のまま存続できるようになった。④港も整備されて週一便、韓国の釜山を結ぶコンテナ航

路が開設された。今後貨物量が増えれば便数が増えることが期待されている。⑤昔懐かしい屋台を一カ所にまとめた「大門横丁」を開店させた。現在、二十六店舗が入っているが、東北以北では最も大きな屋台村として観光客にも好評を得ており、大門地区の活性化に貢献してくれ

るものと期待されている。⑥渡島支庁舎の敷地後に七千六百平方メートルの中央図書館が完成した。蔵書数が六十五万冊で、三十万都市としては日本でも屈指の規模だと思う。一日平均二千五百人から三千人の市民が利用されている。⑦函館空港ビルが一新され、三倍の大きさになった。台湾からのチャーター便が昨年だけで八百七十便あった。北海道には台湾の観光客が毎年十八万人来ているが、このうちの十三万人が函館空港を利用されている。また、韓国・ソウルを結ぶ定期航空路の開設が検討されているが、韓国からの観光客が増えることが期待されている(六月一日に第一便が運行された)。⑧新五稜郭タワーが四月から営業する。高さが百七メートルで、今までより五角形の城郭の形がはつきりと見えるようにな

る。⑨五稜郭城内に箱館奉行所の建築に着工する。完成まで四年ほど要するが、新たな観光資源のひとつとして期待されている。

北海道では、依然として厳しい経済状況が続いているが、そうした中であって

路が開設された。今後貨物量が増えれば便数が増えることが期待されている。⑤昔懐かしい屋台を一カ所にまとめた「大門横丁」を開店させた。現在、二十六店舗が入っているが、東北以北では最も大きな屋台村として観光客にも好評を得ており、大門地区の活性化に貢献してくれ

るものと期待されている。⑥渡島支庁舎の敷地後に七千六百平方メートルの中央図書館が完成した。蔵書数が六十五万冊で、三十万都市としては日本でも屈指の規模だと思う。一日平均二千五百人から三千人の市民が利用されている。⑦函館

空港ビルが一新され、三倍の大きさになった。台湾からのチャーター便が昨年だけで八百七十便あった。北海道には台湾の観光客が毎年十八万人来ているが、このうちの十三万人が函館空港を利用されている。また、韓国・ソウルを結ぶ定期航空路の開設が検討されているが、韓国からの観光客が増えることが期待されている(六月一日に第一便が運行された)。⑧

新五稜郭タワーが四月から営業する。高さが百七メートルで、今までより五角形の城郭の形がはつきりと見えるようにな

る。⑨五稜郭城内に箱館奉行所の建築に着工する。完成まで四年ほど要するが、新たな観光資源のひとつとして期待されている。

北海道では、依然として厳しい経済状況が続いているが、そうした中であって



「函館には多少は元気があると考えている。これもひとえに首都圏で活躍されている道南会の皆様の支えがあればこそで、これまで以上のご支援をお願いしたい」。沼崎函館国際観光コンベンション協会会長は「平成十七年度に函館を訪れる観光客は、五百万人を多少下回ると予想されている。この原因には、桜の開花が早かったことと、愛知万博と重なったことの影響があったと思われる。ただし、海外からの観光客は多く、新千歳空港よりも函館空港の利用者がはるかに多い。これは、函館の持つ風光明媚な景観と先人達が築いた歴史と伝統によるもので、函館には税関と運輸管理事務所、検疫所の三つが揃っていることが有利になっている。今年は、

韓国との定期航空路が開設されるのを始め、幾つかの大会や会議などが企画されており、多くの観光客が訪れることになっている。今後も観光客誘致に努力したい。道南会の皆様にもご協力をお願いしたい」と挨拶した。

続いて、川守田孝平道南会副会長が、平成十七年の行事報告と収支報告を、瀬田松吉昭監事が監査報告を行い、それぞれ承認された。引き続き、川守田副会長が十八年の行事として、新年総会と夏季懇親会、月例行事、ふるさと訪問旅行の実施などの事業計画案を報告、原案通り承認され、総会を終了した。

総会終了後、中村隆俊道南会顧問の発声で、道南会の一層の発展と来会各位の健康を祈念して乾杯し、懇親会に移った。

会員相互の賀詞交換や交流が行われる中、金谷博治氏が、お得意の三味線を弾きながらの美声で東北・北海道地方の数々の民謡を披露して、会場の雰囲気を一層盛り上げていた。

懇談の中、十人の新入会員の紹介が行われた後、島田瑞子幹事の司会で、恒例の福引き抽選会が行われた。抽選会では、函館市提供の日本酒や寄贈品の中村隆俊顧問提供の高級陶器、キビ団子、マグカップセット、ビール券、エアー・ドゥ提供の東京・函館往復航空券などの豪華景品が用意されて、当選番号が読み上げられるたびに大きな歓声が上がるとともに、

に、当選者には笑顔がこぼれ、周囲の人に祝福されていた。

懇談はつきなかつたが、沼崎副会長の音頭で中締めとして全員で一本締めを行って終了した。

なお、この日の参加者には、塩味としょうゆ味の函館ラーメンセットと、北海道製菓（本社・函館）提供のクッキーとカパンセットがお土産として配布された。また、受付ロビーでは、㈱まんわさんが海産物の物品販売が行われて、懐かしい味を求める人で賑わっていた。

（菅原大作記）

創立四十五周年記念新年総会・

懇親会出席者

〔来賓〕

- \*函館市商工観光部長 櫻井 健治
- \*函館市商工観光部観光課長 川崎 真一
- \*函館国際観光コンベンション協会会長 沼崎弥太郎
- \*北海道東京事務所副所長 原田 富雄
- \*北海道ふるさと連合会副会長 伊野 辰哉
- \*㈱ジャックス相談役 木島 光彦
- \*AIR DO 松田 直記
- \*札幌ポロビール㈱ 八木澤和夫
- \*㈱ビッグホリデー 杉淵 佳央
- 片桐 一良

〔参加者〕

- 安達昌子、厚谷 諭、阿部喜久雄、阿部正身、五十嵐英寿、池上謹之助、石畑きね子、泉 龍夫、板垣寿美子、梅田やよい、大西孝司、小熊勝夫、小田島 弘、笠川雅彦、加藤信利、金谷博治、上村嘉則、川守田孝平、川守田礼子、菊池紀邦、小坂鉄雄、郷内 繁、越野 誠、小島幸子、小助川昭一、小谷泰三、小林寅雄、小林嘉則、小森良彦、小山和彦、紺井禮子、斉藤勝美、坂本保子、佐々木理夫、佐藤成子、澤株正始、澤株尚子、渋田勝弘、島 浩、島田瑞子、新谷和子、新谷義克、菅原大作、杉田博子、須藤珠美、瀬田松吉昭、相馬 滋、染木志郎、染木トシ、高橋順吉、高橋 大、竹中裕行、田代沙智子、田沼修二、田村治雄、田村良人、丹野康男、土橋道子、敦澤義彦、弦巻鋼男、寺田耕治、時田厚子、豊田利雄、豊田みさ子、島本玲子、中島利雄、長島 康、中村隆俊、中村 勉、中山泰誇、納代鉄也、波間省三、榎木久澄、成田きよえ、沼崎貞良、沼崎茂子、根来美和子、能味寿哉、比嘉裕子、福島 紀、福田裕子、福津達男、二上達也、古井勝春、堀内洋子、本間和吉、本間作喜、松浦和彌、松代晃明、三浦健蔵、三國比左男、三橋淑子、葉袋 泰、三村寿雄、森岡偉行、矢内喜代、山本和子、山下弘治、山田克明、山名昭二、山本久子、吉田 孝、若林英毅、渡邊宏司、渡邊良孝。

# 道南会行事報告

★「創立四十五周年記念新年総会」

一月二十一日(土) 午後一時開会  
プレスセンターホール(詳細別掲)

★「新宿御苑」観梅会

三月五日(日) 午前十一時

異常気象で寒暖の差が大きき日が続いていたが、この日は晴天。しかも風もなくて暖かく、絶好の梅見日和であった。梅の満開までには今一步であったが、緑の絨毯の上でビールを酌み交わし、歓談した。  
参加者三十一名

★「国営昭和記念公園」観桜会

四月八日(土)

あいにくの大雨と雷のために中止。多数の参加希望者があっただけに残念であった。

★「東京水辺めぐり」クルージング

五月二十日(土) 正午

「江戸・東京ふらり旅」と名付けた今回の行事は、両国発着場から水上バスに乗船して、隅田川を浜町、越中島、浜離宮、お台場まで下り、葛西臨海公園から荒川に入り、平井周辺から墨田水門を経て再び隅田川を下った。台風之余波が残った強風が吹き荒れ、波も高かったが、船は思ったほどの揺れもなく、ビールと弁当を楽しみながら東京の水辺の風景を満喫した四時間の船旅であった。  
参加者三十名

★「ふるさと訪問旅行」

六月四日(日)～六日(火)

(詳細別掲)

★「第三回道南会ゴルフコンペ」

七月七日(金)

習志野カントリークラブ

クイーンコース

恒例となったゴルフコンペは、二十二名(女性三名)が参加して行われた。梅

雨の最中ではあったが、雨にふられるこ

ともなく、熱戦が展開された。小坂鉄雄

さんが見事に優勝。ベストグロス賞は郷

内繁さんが獲得された。

## 平成17年度収支報告書

自平成17年1月1日至平成17年12月31日  
北海道道南会

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前期繰越高	992,155	行事費	1,693,757
年会費	842,000	通信費	196,220
行理会費	1,715,750	旅費交通費	102,920
寄付金	23,000	会議費	63,000
雑収入	7,600	消耗品費	26,820
受取利息	38	印刷費	120,669
		支払手数料	9,780
		雑費	58,696
		次期繰越高	1,308,681
合計	3,580,543	合計	3,580,543

次期繰越高内訳	現金	17,646
	預金	1,157,395
	振替貯金	133,640
	合計	1,308,681

## 新入会員紹介

五十嵐英寿

石畑きね子

紺井 禮子

島 浩

高橋 順吉

中島 利雄

中村 勉

植木 久澄

山本 久子

渡邊 良孝

沼崎副会長の紹介

山本久子さんの紹介

金谷博治さんの紹介

同

三村常任幹事の紹介

函館市のホームページ

を見て

敦澤義彦さんの紹介

新谷義克さんの紹介

小山和彦さんの紹介

## 訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

一色昭男様 平成十七年八月五日逝去

田中正巳様 平成十七年八月五日逝去

松代晃明様 平成十八年一月逝去

弦巻鋼男様 平成十八年三月二十七日逝去

西堀正弘様 平成十八年七月一日逝去

会報「道南」十八年夏季号・通巻44号

発行 平成十八年八月一日

発行所 北海道道南会事務局

横濱市鶴見区生麦四一九一

十三一八〇三 川守田 気付

印刷所 (株)ソーラン社

中央区日本橋小伝馬町十六一八